

【 まちの将来像3 】

みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	本市の生涯学習に関する取組の基本となる計画を策定するとともに、市民、行政、教育機関、企業等との連携により、社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会、情報などを提供し、市民の主体的な生涯学習活動を促します。 社会教育については、学校教育との連携を図りながら、これからの時代に求められる成人の学習や、公民館活動の推進、図書館の機能の充実を図ります。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	中井 誠
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
		施策関係課	社会教育振興課、中央図書館		
6	施策内の取組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備		
		3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進		
		3-1-3	成人の学習の推進		
		3-1-4	公民館活動の推進		
		3-1-5	図書館サービスの充実		

2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題		
	生涯学習推進体制の整備については、「きらめき講座」の対面実施に加え、生涯学習センターの一部講座のオンデマンド配信を実施しました。さらにデジタルデバイドの解消に向けて、スマートフォン等を活用した講座や障害者の方向けのスマホ講座等を開催した他、生涯学習関連施設との連携については、関係機関のきらめきフェスタ参画等により推進しました。 生涯学習についての普及啓発の推進については、Next Stageの情報掲載数はコロナ禍における事業実施の工夫等により前年度の目標値を上回りました。また、より多くの市民が生涯学習機会を得ることができるよう市ホームページやフェイスブック等にて情報発信に努めました。 成人の学習の推進については、識字・日本語教室事業はコロナ禍において、オンライン活用や通信添削等を各教室の実情に応じて取り入れ、実施することができました。また、日本語教育や多文化共生について理解を深め、地域における人権意識の醸成を図るため指導者研修を実施し、新たな指導者を獲得することができました。 公民館活動の推進については公民館講座等は感染症対策を講じ募集人数や開催回数の基準を緩和する等の工夫により受講者数・開催数は増加しました。また、館長・主事会議及び運営委員長会議を開催しコロナ禍における公民館事業(文化展)の開催や民間事業者と連携した現代的課題(SDGs等)に係る講座・講習会の情報を共有しました。 図書館サービスの充実については中央図書館開館30周年事業や子ども読書活動推進事業を関係団体等との協働により実施し利用促進を図りました。また、おにクルぶっくばー開館に向け各種連携行事や寄附事業を行い新施設のPRに努めたほか図書館ホームページからのパスワード申請を可能とするなど利用者の利便性向上につなげました。 以上から、おおむね各施策の方向性に沿って進行していますが、引き続き学習環境の充実や様々な主体との連携、講座等の情報提供、DXの推進が必要であるため、「B」評価とします。		課題①	引き続き、「茨木市生涯学習推進計画」の方向性に基づき、市民ニーズに沿った生涯学習を推進し、また、インターネット等を利用したより効果的な学びに繋げるため、学習環境の更なる充実が必要です。	
			課題②	識字・日本語教室事業について、多文化共生事業との連携を進めていく必要があります。	
			課題③	現代的課題・地域課題の解決に向けた取組の充実に向けて、民間事業者等のノウハウを生かした公民館講座の開催等についてさらなる情報提供を図る必要があります。	
			課題④	中条図書館のおにクル移設を円滑に進めるとともに、施設の特徴を活かした連携事業や運営を行う必要があります。	
			課題⑤	第3次子ども読書活動推進計画に基づき、乳幼児期から途切れることなく、発達段階に応じた取組を推進し、非来館型サービスの充実等DX推進により、市民の利便性向上や利用促進に取り組む必要があります。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

3 施策内の取組の評価

1	取組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 今西 雅子	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	生涯学習施設とあらゆる機関が連携し、多様な生涯学習の機会が提供されています。生涯学習の中で培った豊富な知識や技術を活用する機会が充実し、自己実現やまちづくり活動などの社会参加にいかされています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	時間や場所に捉われない学びの場の提供として、100種類以上の講座を展開する「きらめき講座」の対面実施や生涯学習センターの一部講座のオンデマンド配信等を実施し、学習の機会の提供として、ICTに不慣れな方に対して、タブレットやスマートフォンを活用した講座や障害者の方を対象とした初心者向けスマホ講座を開催しデジタルデバイドの解消に努めました。また、生涯学習関連施設との連携については、関係機関のきらめきフェスタ参画などにより推進しました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ 以上のことから施策の方向性に沿って、概ね順調に推移していますが、新たな主体との連携講座を検討する必要があるため「b」評価とします。				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
きらめき講座受講者数	人	↗	20,426	25,386	27,000 (R5)		
講座の動画配信数	本	↗	11	11	6 (R5)		
天文観覧室(プラネタリウム)利用者数	人	↗	6,719	9,881	10,000 (R5)		

1	取組	3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 今西 雅子	
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	生涯にわたって学び成長し続けることで、新たな時代に対応し快適で豊かな人生が送れることにつながる多くの人が理解しています。多くの市民がいつでも自由に学習の場や機会を選択して、楽しく学ぶことができるよう情報提供が行われています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	生涯学習情報の発信については、Next Stage情報掲載数はコロナ禍における事業実施の工夫等により前年度よりも増加し目標値を上回りました。また、より多くの市民が生涯学習機会を得ることができるよう市ホームページやフェイスブック等にて情報発信に努めました。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ 以上のことから施策の方向性に沿って順調に推移していますが、SNSを活用したより効果的な情報発信について検討する必要があるため「b」評価とします。				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
Next Stage情報掲載数	件	↗	432	587	410 (R5)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

1	取組	3-1-3	成人の学習の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉崎 幸司
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	成人が学習意欲をもって自己啓発に励み、充実した日常生活を送るとともに、学習成果を社会へ還元し、地域社会の連帯、活性化につながるよう、組織的な教育活動が充実しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	識字・日本語教室事業について、コロナ禍においてもオンライン活用や通信添削等を各教室の実情に応じて取り入れ、実施することができました。また、日本語教育や多文化共生について理解を深め、地域における人権意識の醸成を図るため指導者研修を実施し、新たな指導者を獲得することができました。				
			以上のことから、コロナ禍においても工夫し事業を進行できましたが、多文化共生事業の一環として、庁内連携し取り組んでいく必要があるため、「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
			R3年度	R4年度			
社会教育関連講習講座の参加者数	人	→	1,007	973	1,100(R4)		

1	取組	3-1-4	公民館活動の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	吉崎 幸司
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりのため、学習機会や情報が提供されています。それぞれの地域性をいかした地域づくり活動が活性化するための支援が充実しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	公民館講座、講習会等については、コロナ禍においても感染対策を講じるとともに、募集人数や開催回数の基準を緩和するなど、関係者の創意工夫のもと地域の実情に応じて実施したことにより、受講者数・開催数は増加しました。				
			また、館長・主事会議及び運営委員長会議を開催し、コロナ禍における公民館事業(文化展)の開催や民間事業者と連携した現代的課題(SDGs等)に係る講座・講習会の情報を共有することができました。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	以上のことから、コロナ禍においても工夫し事業を進行することで、目標を達成したことから「a」評価とします。				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
			R3年度	R4年度			
小学校区公民館講座受講者数	人	↗	1,780	1,982	1,800(R4)		
小学校区公民館講座等開講数	講座等	↗	268	347	280(R4)		
講座等開講数のうち、現代的課題・地域課題の解決に向けた取組によるもの	回	↗	26	39	32(R4)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

1	取組	3-1-5	図書館サービスの充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	中央図書館	課長名	吉田 典子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	地域の情報拠点として、必要な情報を得ることができ、調べものを行うなど、仕事や生活上の課題を解決するために利用されています。 乳幼児から高齢者まで、読書活動の推進が図られ、市民の暮らしに役立つ図書館サービスが提供されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	中央図書館開館30周年事業や子ども読書活動推進事業を、ボランティアや関係団体等との協働により実施し、図書館の利用促進を図りました。また、おにクルぶっくぱーく開館に向け、関係部署と連携した行事やブックトラベルの開催、クラウドファンディングによる寄附事業を行い、新施設のPRに努めました。 図書館ホームページからのパスワード申請を可能にし、電子書籍の予約確保メールの送信を開始することで、利用者の利便性向上につながりました。これら図書館サービスの充実に努め、貸出点数も回復し、順調に進行していることから「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	資料貸出点数	点	↗	3,236,933	3,570,988	3,600,000 (R5)	
	蔵書冊数	冊	→	1,263,106	1,266,627	1,250,000 (R5)	


4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学文学部 今西 幸蔵 特任教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「施策の現状と課題」において、新しい生涯学習推進計画のもと、多岐にわたる分野で適切に生涯学習事業が実施されており、一定の成果を上げていることから、総合評価「B」は妥当である。 ・本市の行政課題を的確に把握し、そのための生涯学習施策を実施している点で、課題①～⑤及び総合評価を一ランク上げても良いが、さらなる成果を目指すという点で現状の評価が良い。 ・取組の評価で、「きらめき講座」でのオンデマンド配信等が情報弱者と呼ばれる人たちへの配慮やデジタルデバイス対策として実施されており、ユニバーサルアクセスの実現に向けてさらに進めていただきたい。 ・成人学習の推進として、「リスキリング」に係る事業が記載されていないが、本市における意識調査でも学習ニーズが高いことから、生涯学習センターや公民館等の今後の事業計画において検討されたい。 ・図書館サービスの充実やおにクルぶっくぱーく開館に向けた取組は「a」評価となっており、さらなる事業振興を期されたい。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性(後期基本計画より)	本市のスポーツ推進計画に基づき、スポーツ関係団体等と連携し、健康増進・生きがいづくりのイベント、スポーツ教室等を開催するとともに、各自の興味や年齢、体力、技能等に応じて、誰もが気軽に生涯スポーツに親しむことができる環境を整えます。地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークを構築します。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	中井 誠
		施策主担当課	市民文化部	スポーツ推進課	—
6	施策内の取組	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進		
		3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成		

2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
		評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)	R4年度末現在の施策の主な課題		
		<p>多様な生涯スポーツ活動の推進に向けて、市民の健康増進・生きがいづくりにつなげるため、市や総合型地域スポーツクラブによるスポーツ教室やサークル活動、自治会や子ども会などでのニュースポーツ教室・体験会、障害者とのスポーツを通じた交流機会の拡充を進めた結果、コロナ禍で減少傾向にあった各種大会やイベントの参加者も大きく増加し、多様な生涯スポーツ活動を推進しました。</p> <p>また、令和4年度には、スポーツ教室や各種スポーツイベントの情報など、スポーツに関わる情報発信に努めた結果、スポーツ競技団体等によるスポーツ大会の参加者が令和3年度に比べ2倍となるなど大きな成果が上がってきています。</p> <p>スポーツ関係団体や指導者の育成に向けて、各公民館区から選出されるスポーツ推進委員に対して各種研修会への参加を促進するなど、指導者の技術力向上を図りました。また、障害者スポーツについては、スポーツ推進委員に対して初級障害者スポーツ指導員養成講習会への参加促進やスポーツ指導者研修会にパラスポーツ指導を含めるなど、指導者養成の取組を推進しました。</p> <p>以上のことから、全体としては施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断しますが、スポーツに触れる機会がさらに増加するよう情報発信と環境整備を強化するとともに、引き続き指導者育成のために研修内容の充実等を図る必要があるため総合評価は「B」とします。</p>	課題①	スポーツに関心を持ち、スポーツに取り組む市民が増えるよう、一層の情報発信に取り組む必要があります。	
	課題②		働き世代・子育て世代が気軽に始められるスポーツや子どもの好奇心をひきつけるスポーツ体験の取組みが必要です。		
	課題③		コロナ禍のためスポーツ参加機会が減少する中でも、安全にスポーツを楽しむことができるよう環境整備に努める必要があります。		
	課題④		スポーツ関係団体の連携を図る必要があります。		
	課題⑤		スポーツ指導者の資質の向上に取り組む必要があります。		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-2	みんなが楽しめるスポーツ活動を推進する

3 施策内の取組の評価

1	取組	3-2-1	多様な生涯スポーツ活動の推進					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名	小西 勝二	
3	関係課							
4	目標 (後期基本計画より)	スポーツ関係団体等と連携し、年代や障害の有無に関わらず、いつでもどこでも気軽に参加できるよう、健康増進・生きがいづくりのイベント、スポーツ教室等が充実しています。 「する」「観る」「支える」といった様々な形で積極的にスポーツに参加し、スポーツを楽しみ、喜びを得ています。						
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		b	市民の健康増進・生きがいづくりにつなげるため、市や総合型地域スポーツクラブによるスポーツ教室やサークル活動、自治会や子ども会などでのニュースポーツ教室・体験会、障害者とのスポーツを通じた交流機会の拡充を進めた結果、コロナ禍で減少傾向にあった各種大会やイベントの参加者も大きく増加しました。以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、スポーツに触れる機会がさらに増加するよう情報発信と環境整備を強化する必要があるため「b」評価とします。					
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度 R4年度	目標値(年度)
			各市民体育館稼働率	%	→	77 84	80(R4)	
			ニュースポーツ体験会等の参加人数	人	↗	726 1,168	700(R4)	
市と市内の競技団体の共催によるスポーツ大会参加者数	人	↗	6,766 10,340	13,000(R4)				

1	取組	3-2-2	スポーツ関係団体や指導者の育成					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	スポーツ推進課	課長名	小西 勝二	
3	関係課							
4	目標 (後期基本計画より)	スポーツ関係団体や地域スポーツ等の活動・運営を支える人材の育成や互いに協力しあえるネットワークが構築されています。幅広い世代の人々が、生涯を通してスポーツを気軽に楽しめる機会を提供する総合型地域スポーツクラブが活発に活動しています。						
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		b	地域スポーツ推進については、各公民館区から選出されるスポーツ推進委員に対して各種研修会への参加を促進するなど、指導者の技術力向上を図りました。また、障害者スポーツについては、スポーツ推進委員に対して初級障害者スポーツ指導員養成講習会への参加促進やスポーツ指導者研修会にパラスポーツ指導を含めるなど、指導者養成の取組を推進しました。 以上のように、研修会の参加人数が増加するなど、施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、引き続き指導者育成のための情報発信や研修内容の充実を図る必要があるため「b」評価とします。					
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R3年度 R4年度	目標値(年度)
			総合型地域スポーツクラブの会員数	人	→	1,218 1,225	1,400(R4)	
			スポーツ指導者講習・研修会参加者数	人	↗	71 111	130(R4)	

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1~3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	追手門学院大学社会学部 辰本 頼弘 教授				
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・取組3-2-1において、体験会やスポーツ大会の参加人数が増加の傾向が見られ、積極的なスポーツ活動への参加が達成されていると考える。ただ、体育館稼働率は微増で、今後利用を促す取組や老若男女が参加しやすい内容・種目についての検討が必要である。 ・取組3-2-2において、指導者講習ならびに研修会への参加人数も増加傾向にあり、指導者育成に関しては進んでいるように思われる。ただ、総合型地域スポーツクラブの会員数増加を目指すには、指導者の人的充実が急務であることや指導者の資質向上が必要である。 ・新型コロナウイルスの影響においてスポーツ活動は大きな制限がかけられたが、「施策の現状と課題」において、多様な生涯スポーツ活動の推進、スポーツ関係団体や指導者の育成については一定の取組の成果が見られることから、総合評価「B」は妥当であると考えます。 				

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	文化振興ビジョンに基づき、市民の主体的な文化活動や交流を支援するとともに、子どもたちへの多様なアプローチを進めるなど、新しい担い手の発掘と育成を図ります。また、歴史遺産の保存と活用を推進し、拠点施設の機能充実を図り、市民の郷土愛を育むことで、歴史文化遺産を発展的に継承します。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	中井 誠
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
	施策関係課	市民会館跡地活用推進課、歴史文化財課、中央図書館			
6	施策内の取組	3-3-1	多様な主体の協働による文化のまちづくり		
		3-3-2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり		
		3-3-3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成		
		3-3-4	歴史遺産の保存・継承		
		3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成		

2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
2	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題		
	<p>多様な主体の協働については、コロナ禍で公演等を開催しにくいなか、芸術団体等の活動等への補助である文化振興補助制度を活用し、芸術団体や芸術家には活動の場を、市民には鑑賞の場を提供しました。文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくりに向け、市民会館跡地エリアについては、おにクル及び芝生広場の管理を行う指定管理者を選定し、11月の開館に向け開館記念式典や市民の期待感醸成に向けたプレ事業等について調整を進めました。富士正晴記念館については、企画展・講演会・子ども向けイベントにより幅広い年代への周知に努め、富士正晴の絵を使用した一筆箋等の作成による魅力発信を進めました。未来へ向けた文化芸術の担い手の育成に向け、子どもたちが芸術文化を楽しむ機会の充実については、障害の有無にかかわらず児童・生徒が絵画・造形を楽しむ機会となり定員を上回る応募者がある美術教室「maru」の通年実施、児童作品を展示する「maruのじかん展」の開催、こどもと保護者を対象としたワークショップ等のコロナ禍以前の水準での実施等機会の拡充に取り組みました。</p> <p>歴史遺産の保存・継承に向けては、文化財資料館及びキリシタン遺物史料館については、コロナ禍で中止していた団体見学等を再開し、文化財資料館内に開室した郷土史料室では地域の文献史料の収集・整理等を進めました。埋蔵文化財については発掘調査で出土した遺物の整理及び台帳作成等を進めました。</p> <p>郷土への愛着心とブランド形成に向けては、茨木市の文化的特性を活かした取組に関しては、川端康成文学館の入場者数が回復しただけでなく、夏休み企画展など様々な取組を進めました。</p> <p>以上から、おおむね各施策の方向性に沿って進行していますが、引き続き市民等との協働・連携事業の実施、開館記念式典等への市民参画、「maru」の事業検討、文化財の保護の取組への理解の促進や魅力に触れる機会の提供、文学に関する訴求力のある取組等が必要であるため、総合評価は「B」とします。</p>		課題①	多様な主体の協働については、おにクル開館を見据えて、市民や芸術団体等と開館の機運を高める協働・連携事業を実施する必要があります。	
			課題②	おにクルの開館記念式典やプレ事業の実施にあたっては、これまでの取り組みを踏まえ、市民にも参画いただける手法について検討を行う必要があります。	
			課題③	「maru」については、ニーズに的確に対応し、持続的な実施に向けた課題整理と事業検討を強化する必要があります。	
			課題④	文化財所有者の方に文化財保護の取組に対する理解を深めていただけるよう働きかけていくとともに、多くの市民に本市の文化財の魅力に触れていただく機会を提供する必要があります。	
			課題⑤	川端康成文学館については、過去の資料を展示する既存事業だけではなく、文学に関心が高くない方などへ訴求力のある取組が必要で	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

3 施策内の取組の評価

1	取組	3-3-1	多様な主体の協働による文化のまちづくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	市民の多様性、自主性を尊重することによる多様な主体の協働や、文化振興財団、文化芸術団体、大学等との連携により、文化芸術活動が活性化しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	新型コロナウイルス感染症の影響により公演等の文化芸術活動を開催しにくい状況のなか、芸術団体等の活動や公演への補助である文化振興補助制度を活用し、芸術団体や芸術家には活動の場を、市民には鑑賞の場を提供することができました。 以上のことから、施策の方向性に沿って概ね順調に進んでいますが、市が芸術団体等と協働・連携して実施する事業を、さらに増加させる必要があるため、「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
市が他の主体と協働・連携して実施する事業数	件	↗	17	17	18(R6)		
「次なるわたしへ」文化振興補助制度申請件数	件	↗	9	19	—		

1	取組	3-3-2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課	中央図書館、市民会館跡地活用推進課					
4	目標 (後期基本計画より)	様々な場所で文化と身近にふれることのできる環境を整備し、障害の有無にかかわらず、市民が文化芸術を鑑賞、参加、創造する機会が充実しています。 また、高齢者や子育て世代、若者、障害者、外国人など、それぞれの文化芸術ニーズに応える事業を行うことにより、市民誰もが、気軽に文化芸術とふれる・感じる・つながる環境が整っています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	市民会館跡地エリアについては、おにクル及び芝生広場の管理を行う指定管理者を選定し、11月の開館に向け開館記念式典や市民の期待感醸成に向けたプレ事業等について調整を進めました。文化振興事業については、クリエイトセンターの喫茶食堂スペースを様々な団体の交流の場とし、団体間の連携の一助としました。富士正晴記念館については、企画展・講演会・子ども向けイベントにより幅広い年代への周知に努め、富士正晴の絵を使用した一筆箋と冊子「富士正晴と関西の作家第3集」の作成による魅力発信を進め、来館者数も回復しました。 以上のことから施策の方向性に沿って順調に推移しており「a」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
市立ギャラリー入場者数	人	↗	11,216	18,163	16,000(R6)		
文化振興イベント参加者数	人	↗	7,911	12,925	24,000(R6)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

1	取組	3-3-3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	文化芸術の教育現場による活用や、若手芸術家の育成などにより、次の世代が、未来に向かって育っています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>子どもたちが芸術文化を楽しむ機会の充実については、障害の有無にかかわらず児童・生徒が絵画・造形を楽しむ機会となり定員を上回る応募者がある美術教室「maru」の通年実施、児童作品を展示する「maruのじかん展」の開催、子どもと保護者を対象としたワークショップ等のコロナ禍以前の水準での実施等機会の拡充に取り組みました。</p> <p>以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、「maru」については、ニーズに的確に対応し、持続的な実施に向けて課題の整理と事業検討を継続して進める必要があることから、「b」評価とします。</p>				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	子ども対象の芸術文化講座 参加者数	人	↗	53	143	150(R6)	
	川端康成文学館俳句コンクール 学生応募者数	件	↗	2,432	1,765	1,600(R6)	

1	取組	3-3-4	歴史遺産の保存・継承				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	歴史文化財課	課長名	木下 典子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	多くの市民がキリシタン遺物や銅鐸鋳型など、本市の貴重な歴史遺産や文化財に親しむ機会が充実しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	<p>文化財資料館及びキリシタン遺物史料館で、感染症対策を取りつつ団体見学を再開するなどコロナ禍で中止していた活動を徐々に再開させるとともに、文化財資料館内に開室した郷土史料室では地域の文献史料の収集・整理・保存・活用を進めました。埋蔵文化財については発掘調査で出土した遺物の整理及び台帳作成等を順調に進めました。一方テーマ展見学者数は減少しましたが、これは開館以来固定化されていた常設展示のリニューアルに伴い、既存事業を活用しながら講演会や他のイベントを縮小して実施したことによる一過性のものであります。以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に進んでいますが、コロナ禍前の活動の再開に向けてより一層取組を推進する必要があるため「b」評価とします。</p>				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	文化財資料館テーマ展見学者数	人	↗	4,151	1,886	2,500人(R5)	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

1	取組	3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	“茨木市らしさ”を形成する大切な文化資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木市らしさ”を大切にすることが育まれています。また、多くの市民が文化のまちとしての誇りを持つブランドが形成されており、市内外に情報が発信されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	茨木市の文化的特性を活かした取組に関しては、川端康成文学館について感染対策を講じつつ創意工夫のもと開館した結果、夏休み企画展を含む入場者数が、前年度に比べ大幅に増加するなどwithコロナを念頭においた取組を進め、多くの方に文学に興味・関心を持ってもらう事業を実施しました。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移しているため「a」評価とします。				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	川端康成文学館入場者数	人	↗	4,336	9,334	9,000 (R6)	
	川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	↗	369	627	1,000 (R6)	

下線部は学識経験者の意見を踏まえ、修正した部分です。

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1~3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	国立民族学博物館 出口 正之 名誉教授
2	意見等	<p>おにクル開館直前にあって、文化振興ビジョンの精神をしっかりと生かしながら、着実に政策を実行している。自己満足に陥ることなく冷静に現在の課題も把握しており、総合評価「B」は以下のような理由から妥当である。</p> <p>3-3-1については、コロナに関連して大学との連携が難しい中、文化振興補助制度を利用した市民サイドの自発的な取り組みがうまくいって「b」評価は妥当である。</p> <p>3-3-2については、おにクル開館前のイベントが充実し、市民の間に盛り上がりが見られる。コロナの状況が少し改善していたとはいえ、必ずしも正常な状態といえない中で、市立ギャラリー入場者数も文化振興イベント参加者数も約5割増しの成果を上げており、「a」評価も妥当である。</p> <p>3-3-3については俳句コンクールについては、社会的な俳句ブームがある中でももう少し応募が伸びてもよかったのではないかとと思うが、美術教室「maru」の通年による実施など、丁寧な展開を行っているので「b」評価で妥当である。</p> <p>3-3-4については、団体見学を再開し、コロナの影響が少なくなっていること等入場者増加要素もある中で、入場者数を大幅に減らしているが、「一時的な要因」とする根拠に説得力がなく、「b」は過大評価過ぎる。もう少し現状を冷静に把握した上で今後の施策にあたるべきであろう。</p> <p>3-3-5については、川端康成文学館の入場者が大幅に増加していることから「a」評価としてもよいのではないかと。</p>

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりを推進する		
3	対応するSDGs	<div style="display: flex; align-items: center; gap: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"> 8 <small>働きがいも経済成長も</small> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; text-align: center;"> 12 <small>つくる責任 つかう責任</small> </div> </div>			
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	茨木市の自然、歴史、文化、地域で生み出される特産品など豊富で魅力的な観光資源を最大限に活用し、市内外の人が訪れて「楽しい」と思ってもらえるよう、観光資源をつなぐ取組を推進します。さらに、観光協会と連携し、幅広い年代に応じた効果的な情報発信を行い、わがまちに誇りを持てる、観光をいかしたまちづくりを進めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	産業環境部	部 長	松本 栄子
		施策主担当課	産業環境部	商工労政課	—
		施策関係課	まち魅力発信課、農林課、北部整備推進課		
6	施策内の取組	3-4-1	観光資源の発掘とネットワーク化の推進		
		3-4-2	観光情報の発信を強化		
		3-4-3	官民協働で観光事業を推進		

2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題		
	コロナ禍が始まって3年目となる令和4年度は、感染対策を講じたうえで徐々にイベント等の活動も再開されてきました。 観光資源の発掘とネットワーク化の推進については、魅力スポットをめぐるウォーキングイベント等が実施され、多くの参加がありました。北部地域については、地元団体等と連携したイベント、学生を中心とした農業体験など、山間部ならではの魅力の創出と発信に努めたほか、新たな観光資源として期待される「ダムパークいばきた」を拠点とした北部地域の活性化に向けて、実際に公園で活動したい市民等を対象にしたワークショップを開催しました。 観光情報の発信については、広報誌や市ホームページ・SNSでの発信、公共施設や主要駅へのポスター・チラシの設置等をはじめ、関係団体の広報媒体も活用し、本市の情報発信に努めました。また、今後の本市への期待感の醸成するため、おにクルと安威川ダム周辺整備をテーマとしたポスターを作成し、公共施設や大阪モノレール車内に掲示しました。 官民協働による観光事業の推進については、茨木フェスティバルや茨木音楽祭といった大規模なイベントも、感染対策を講じて3年ぶりに開催され、多くの来場者がイベントを楽しんでいました。その他、装飾エリアを拡大したイルミネーション、市内各所でのロケーションを活かしたイベントなど、民間のアイデアや主体性のもと、様々な事業が実施されました。 以上、概ね順調に進行していますが、新たな観光資源の創出を機に、更なる集客や活動を促進する必要があることから、「B」評価とします。		課題①	令和6年中の開園をめざす「ダムパークいばきた」を拠点とし、いばきた全体のエリアマネジメント活動を実践するため、様々な主体とともに、今後の組織編制に向けた取組を行う必要があります。	
			課題②	「ダムパークいばきた」を核として、広域からの来訪や市内での回遊、経済活動も促進するため、戦略的な観光施策や情報発信に取り組む必要があります。	
			課題③		
			課題④		
			課題⑤		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりを推進する

3 施策内の取組の評価

1	取組	3-4-1	観光資源の発掘とネットワーク化の推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	河原 勝利
3	関係課	北部整備推進課、まち魅力発信課、農林課					
4	目標 (後期基本計画より)	市の観光資源をいかした多彩な企画が催されています。また、豊かな自然をいかし、各所でもぎ取り園など農業関連イベントが開催され、多くの市民で賑わっています。 新たに整備された観光資源ネットワークが市民に周知され、多様なイベント・企画によって世代性別を問わず訪れた人々で賑わっています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	コロナ感染対策下で様々な活動が再開され、観光あるきの踏破数は沿線他市と同様に減少しましたが、魅力スポットをめぐるウォーキングイベント等には多くの参加がありました。北部地域については、地元団体等と連携したイベント、学生を中心とした農業体験等、山間部ならではの魅力の創出と発信に努めました。「ダムパークいばきた」については、公園で実際に活動したい市民等を対象にしたワークショップを開催し、公園を拠点とした北部地域の活性化に向けた取組を進めています。 以上、概ね順調に進行していますが、新たな観光資源を核として、更なる集客や交流、活動を促進する必要があることから「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	阪急沿線観光あるき ウォーキングアプリにおける茨木市作成コースの踏破回数	回	↗	698	359	680	
	「いばらき観光ウォーク」参加者数	人	↗	201	340	400	

1	取組	3-4-2	観光情報の発信を強化				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名	河原 勝利
3	関係課	まち魅力発信課					
4	目標 (後期基本計画より)	積極的な情報発信により、イベントや企画が多くの人で賑わっています。 観光に訪れようとする市内外の人たちが、容易に必要な情報を取得できる環境が整っています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	広報誌や市ホームページ・SNSでの発信、公共施設や主要駅へのポスター・チラシの設置等をはじめ、関係団体の広報媒体も含め、本市の魅力情報の発信に努めました。 今後の茨木への期待感の醸成するため、おにクルと安威川ダム周辺整備をテーマとしたポスターを作成し、公共施設や大阪モノレール車内に掲示するなど、概ね順調に進行していますが、新たなまちづくりの動きを契機として、さらに広域・対外的に本市のPRを進める必要があることから、「b」評価とします。				
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	市SNSの総登録者数	件	↗	18,077	20,923	20,500 (R4)	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-4	観光資源の活用と創出で魅力あるまちづくりを推進する

1	取組	3-4-3	官民協働で観光事業を推進				
2	主担当課	部名	産業環境部	課名	商工労政課	課長名 河原 勝利	
3	関係課	まち魅力発信課					
4	目標 (後期基本計画より)	市民や関係団体が主体的に加わるかたちで観光の振興が進められ、まちが活性化し、賑わいが創出されています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	コロナ禍からのイベントの再開が進み、茨木フェスティバルや茨木音楽祭といった大規模イベントも、感染対策を講じて3年ぶりに開催され、多くの来場者がイベントを楽しんでいました。その他、新たな装飾エリアを拡大したイルミネーション、市内のスポットをめぐるウォーキングイベント、市内各所でのロケーションを活かしたイベントなど、民間のアイデアや主体性のもと、様々な事業が実施されました。 以上のことから順調に進行していると判断し、「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R3年度	R4年度	
	主要イベントの集客数	人	→	-	148,500	145,000(R4)	


4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学文学部 今西 幸蔵 特任教授
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・「施策の方向性」をふまえ、「施策の現状と課題」に着実に事業に取り組んでおり、また課題に対しても適切な認識がある点で総合評価「B」は妥当である。 ・観光資源の開発はわが国の喫緊の政策課題であり、安威川水系を利用した「ダムパークいばきた」という新しい観光資源を発掘していることに注目する。特に、市北部の地域住民対象のワークショップ開催などをとおして住民ニーズを把握した上での取組を評価する。3-4-1はやがて「a」に転じる可能性があると考えている。ただ、阪急沿線観光あるきにおける踏破回数が激減している理由が何であるか疑問に思われる。 ・広報では、市SNSの総登録者数は微増であり、さらなる周知徹底によって、広域・対外的な市のPRに繋ぐことを検討されたい。 ・3-4-3について、市と関係団体とが協働して観光事業を推進するという理想的な形で取組が進行しており、アフターコロナとしての事業再開が進み始めたこともあり、評価が「a」であることがよく理解できる。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち		
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化を推進する		
3	対応するSDGs				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	国内外の姉妹都市を中心とした市民レベルの交流を促し、他地域の文化の理解を深めるとともに、様々な分野での文化活動の交流を図ります。さらに、市民の異文化理解活動を支援し、国籍を超えた多彩な交流を進めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	中井 誠
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—
	施策関係課	人権・男女共生課			
6	施策内の取組	3-5-1	都市間交流の促進		
		3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備		

2 令和4年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	<p>A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。</p>		
2	評価理由(R4年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R4年度末現在の施策の主な課題		
	<p>都市間交流の促進については、コロナ禍により多様な交流機会の提供を行うことが難しい状況でしたが、茨木市国際親善都市協会と連携し、国内外の姉妹・友好都市と子どもの絵画・書の交換、安慶市の子もたちとのショートムービーの交換、オンラインを活用したミネアポリス市とのミーティング、ミネアポリス市・茨木市姉妹都市協会のニュースレターへの寄稿を継続的に実施するなどし、コロナ禍においても新しい生活様式をふまえた交流を行うことができました。また、竹田市への表敬訪問や、英語スピーチ大会の開催が実現するなど、コロナ禍前の状況に戻りつつあります。また、宿泊施設利用補助制度の利用者数については、昨年度より増加しており、直接的な交流についても、再開してきています。</p> <p>地域国際化を推進するための環境整備については、茨木市国際親善都市協会と連携し、通訳(翻訳)ボランティアを派遣しています。派遣数については、ボランティアの増員を図ったことにより、昨年度より増加しています。また、在住外国人にマンツーマンで日本語教育を行う実用日本語学習会はコロナ禍においても、オンラインを活用し実施を継続するとともに、感染症対策を行い、対面による学習会も継続して実施しています。さらに、転入してきた日本語に不慣れな外国人の利便性向上のために、英語・中国語・やさしいにほんごいばらき生活ガイドブックを更新・配布し、ウクライナ情勢に伴いロシア語版も作成しました。</p> <p>以上から、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を踏まえた、事業を実施し、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していますが、コロナ禍により縮小・中止していた事業の再開や、在住外国人に対する支援の機能強化が必要なため、総合評価は「B」とします。</p>		課題①	小豆島町との姉妹都市提携35周年を記念するとともに、市民レベルでの交流を促し、互いの文化の理解を深める必要があります。	
			課題②	竹田市との姉妹都市提携10周年を記念するとともに、市民レベルでの交流を促し、互いの文化の理解を深める必要があります。	
			課題③	新型コロナウイルスの影響で縮小・中止していた事業を、時勢に応じて再開していく必要があります。	
			課題④	外国人施策に関わる庁内及び各種団体との連携、調整を図りながら、情報の共有、発信を行い、コーディネーター機能を強化する必要があります。	
			課題⑤		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施策	3-5	都市間の交流と国際化を推進する

3 施策内の取組の評価

1	取組	3-5-1	都市間交流の促進				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目標 (後期基本計画より)	市民や関連団体等との連携により、交流が活性化し、様々な「つながり」が生まれています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	国内外の姉妹・友好都市との交流については、コロナ禍の影響で市民訪問団は中止するなど多様な交流機会の提供が難しい中でも、茨木市国際親善都市協会と連携し、子どもの絵画・書の交換事業、オンラインを活用したミネアポリス市とのミーティング、安慶市児童と本市児童とのショートムービーの交換、ミネアポリス市・茨木市姉妹都市協会のニュースレターへの寄稿など、工夫を凝らして交流事業を行いました。また、宿泊施設利用補助制度の利用者数も増加しました。				
			以上のことから施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、多くの方の対面での直接的な交流ができなかったことから、「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
宿泊施設利用補助制度利用者数(小豆島町・竹田市)	人	↗	R3年度	R4年度	200(R4)		
市民訪問団等参加者数(姉妹・友好都市市民訪問団・ミネアポリス体験ツアー)	人	↗	-	-	10(R4)		

1	取組	3-5-2	地域国際化を推進するための環境整備				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課	人権・男女共生課					
4	目標 (後期基本計画より)	市内に在住する外国人が暮らしやすく、また、外国人訪問客が周遊しやすい環境が整っています。市内に住む人々が国籍を超えて交流しています。					
5	R4年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R4年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	市域における国際交流については、コロナ禍で茨木市国際親善都市協会との連携により実施している交流イベントである「国際交流の集い」は中止したものの、オンラインを活用した在住外国人へのマンツーマン日本語教育を行う実用日本語学習会や対策を講じた上での対面学習会などを継続して実施しました。また、通訳依頼増加による通訳(翻訳)ボランティア派遣数も増加しました。				
			以上のことから、施策の方向性に沿って概ね順調に推移していますが、在住外国人に対する支援について、庁内での情報共有・連携に加えコーディネーター機能を強化する必要があることから、「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
国際交流の集い参加者数	人	↗	R3年度	R4年度	400(R4)		
通訳(翻訳)ボランティア派遣数	件	↗	18	54	40(R4)		

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1~3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学文学部 今西 幸蔵 特任教授				
2	意見等	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍においても、国際都市親善協会と連携した取組で一定の成果を上げている。「施策の現状と課題」に示されるように、困難な状況下でも工夫された事業が適切に実施していることから総合評価「B」は妥当である。 ・姉妹都市や友好都市として安慶市、ミネアポリス市、竹田市、小豆島町各々との関係性に見合った形で具体的な事業が実施されていることを評価したい。 ・交流事業として子どもを対象に、絵画・書の交換、ショートムービーの交換といった取組があり、将来的な広がりを感じる。 ・在住外国人への語学支援としてのオンライン学習がコロナ禍でも継続的に行われていることを評価する。さらに、人権、福祉や労働関係の他のセクションとの連携・支援をどう進展させるかを課題として検討されたい。 ・通訳ボランティア数が前年度比3倍になっており、市民の力を活用した国際交流をさらに進展させてほしい。 問題意識として、庁内での情報共有・連携に加えたコーディネーター機能の強化があり、今後の展開に期待する。 				